

ふれあい灘

令和：5年10月20日 第43号
 発行：灘ふれあいのまちづくり協議会
 委員長 伊集院 定義
 編集：広報部会
 題字：橘 香陽



灘ふれあいのまちづくり協議会(以下「灘ふれまち」)は、結成から二十三年が経ちました。今年度のふれまちを運営する役員は十六名となっております。活動を支える役員の高齢化が進み、活動に参加することが負担になり、退会を申し出る方が増えています。

こうした状況の中ですが、灘ふれまちの活動に幅広く参加して頂ける機会をなんとか提供したいと思っております。灘区地域協働課から神戸松蔭女子学院大学書道部の活動を紹介していただきました。書道部の部長が「書道体験ワークショップ(カレンダー作り)」を地域と連携しながら、書道の楽しさを発信する活動をしている。とのことでした。

早速、連絡をとり、九月十七日に小学生八名、大人八名(当日欠席一名)

《書道体験ワークショップ開催》 ワークショップ実行委員会



の参加希望を得て開催することが出来ました。初の試みでしたが、参加した子ども達は保護者が見守る中で、鉛筆の代わりに筆を手に楽しそうに課題に取り組んでいました。

子ども達は、自由に思ったままを筆に乗せ、黒一色ではなく、部員が用意した様々な色も使いながら、世界でたった一つのマイ・カレンダーを作っていました。一緒に来た保護者の中には、子ども達にまげじと筆を取り、熱中している方もいました。

書道部からは、一年生から三年生の五人が参加してくれ、優しく、丁寧に子供たちを指導する姿に、思わず頬が緩んでしまいました。

小学校の低学年から書道始めたと言いう書道の面々



幅広い年齢層が参加しました



思い思いに作品づくりをスタート



楽しい!と言ってもらえました



オンリーワンのカレンダー

の筆さばきは「さすが!」と思えるもので、「書」という伝統文化を通して体育会系とは違った自己研鑽を行っている学生に出会えて、改めて若いということはずばらしいなと思いました。



防コミの消火訓練

私は「灘ふれあいのまちづくり協議会」灘地域福祉センターにも携わって、灘小学校校区の都賀・河原地区の皆さんの活発な活動に触れていつも元気を貰っています。そして思います。文化面では地域に関係なく和気藹々と交流しているのに、なぜ防コミは交流がないのか、タテ組織だからでしょうか。昨年からは度々も合合を重ねて意見が一致、地域を越えた提案型と言うことで灘消防署・灘小学校・区役所の了解を得て確認書を交わし、正式に都賀・河原防コミの協力体制で合同防災訓練を実施することとなりました。とくに行政が入るまでの避難所(灘小体育館)の開設と管理運営は避難者にとって安心できることでしょう。

来年、令和六年一月十四日(日)、午前十時より、灘小学校校庭で消防署、消防団、都賀・河原防コミの合同防災訓練を行います。自治会・婦人会・各組織の皆様、見学や子供達の参加も大歓迎!今後とも防コミ活動のご理解とご協力のほどよろしくお願い致します。



令和4年度(2022年)収支決算書

1 収入の部		令和5年3月31日現在	
科目	収入額	説明	
①ふれまち運営費			
管理運営費(A)	1,504,800		
地域福祉活動費	252,000	定額252,000円	
ふれあいのまちづくり助成金	230,000	地域福祉活動メニュー以外の助成メニューも含め、ふれあいのまちづくり助成金の総額を記載	
①小計	1,986,800		
②その他の公的補助金・助成金	0	ふれまち助成金以外の公的補助金・助成金を記入(別表計で処理している事業を除く)	
③自主財源			
前年度繰越金(B)	192,960		
運営協力金	396,400		
参加費収入	65,500		
積立金繰り入れ	0		
預金利息	10		
その他収入	4,200	電話使用料、寄付金	
③小計	659,070		
④収入額合計(①+②+③)	2,645,870		
2. 支出の部			
科目	支出額	説明	
⑤施設の管理運営費			
電気代	372,400		
光熱水費			
水道代	72,219		
ガス代	37,454		
その他	0		
通信・事務費	119,502		
※修繕費	2,690	決算明細書(1)ののとおり	
※備品購入費	0	決算明細書(2)ののとおり	
消耗品費	108,604		
※その他管理費	1,123,720	決算明細書(3)ののとおり	
⑤小計	1,836,589		
⑥ふれあいのまちづくり助成金対象事業費	384,125		
※地域福祉活動費(その他事業費)	79,915	決算明細書(4)ののとおり	
⑥小計	464,040		
⑦施設の管理運営費・事業費計(⑤+⑥)	2,264,629		
⑧その他の公的補助金・助成金	0	収入②に対する補助金・助成金を記入	
⑨公金支出対象外経費	61,231	公金支出の対象外となる経費を記入	
⑩支出額合計(⑦+⑧+⑨)	2,325,860		

令和4年度決算報告 伊集院 定義

灘ふれまちの予算は、神戸市から交付される「管理運営費」150万4,800円、「地域活動費」25万2,000円と、自主活動に応じて支給される「ふれあいのまちづくり助成金」23万円(4年度)が基礎となっています。この他には、前年度繰越金、運営協力金(センター使用料)、参加費収入などがあり、4年度の予算総額は264万5,870円でした。

一方支出は、施設管理に伴う固定費が183万6,589円、ふれあいのまちづくり活動費が38万4,125円、公金支出対象外経費として6万1,231円あり、合計で232万5,860円でした。積立金への繰入15万7,960円を除き、5年度への繰り越しは5万7,050円となり、5年度の総予算は246万1,860円となっています。



編集後記

気候変動、温暖化、近い将来に予測される東南海地震、このような天災に備えるため、都賀・河原の防災福祉コミュニティが進めている連携の取組を記事にしてみました。是非この記事を読んだ自分と自分の大切な人を守るためにもう一度、自分達が何をしたら良いのか、何が出来るのか問いかけていただければ幸いです。

また、灘ふれまちの連携活動として開催した、松蔭女子学院大学書道部による書道体験ワークショップ(カレンダー作り)の記事にすることができました。お年寄りから幼児まで、二十数名(保護者を含む)の参加があり、オンリーワンの作品が出来上がって大変好評でした。今後もこのようなワークショップを開催していきたいと考えております。その節にはどうぞ参加して下さい。「大谷」

- ◆【今後の予定】
- ◆十一月三日 文化祭
- ◆十一月二十四日 クリスマス会

《書道体験ワークショップ》

神戸松蔭女子学院大学書道部

九月十七日

(日)に灘地域福祉センターでワークショップを開催しました。十六人の方に予約をしていただき、子供からお年寄りまで幅広い世代の方々が参加してくださいました。



ワークショップではオリジナルの2024年カレンダーを制作しました。付き添いで来られた保護者の方々も参加していただけたことになり親子で楽しむ様子も見られました。何の文字を書くのか相談していたり、協力して制作する姿や、辰の絵を持参し、水墨画のような作品を制作していた姿が印象に残っています。また、最後に全員の作品を前に貼り鑑賞しました。オリジナルティ溢れる世界で一つのカレンダーが並び、参加者の表情は笑顔いっぱい、私たちも充実した時間となりました。予約人数を超え、一人でも多くの人に書道を体験してもらうことができ嬉しく感じます。



ワークショップを通して筆で書いてみようと思うきっかけにもなれば嬉しいです。

神戸松蔭女子学院大学書道部は、書道をたくさんの人に楽しんでもらいたい、身近に感じてもらいたいという思いでワークショップを始めました。昨年からスタートして地域のイベントや企画に参加させていただき、多くの方に書道を体験する機会を設けています。学校での書道の授業が憂鬱でも、体験中は嫌な気持ちを忘れて作品制作に取り組んでもらいたいです。まだ字が書けない小さな子どもも、筆を持つという経験をしてほしいです。大人の方には、懐かしい気持ちになつてもらったり、書くことに集中してリフレッシュし、楽しんでもらいたいと思っています。また、私たちのワークショップをきっかけに書道に興味を持っていただければ嬉しいです。終了後に「お習字教室通ってみたい!」「楽しかった!」という感想も頂けるので達成感を感じています。これからも、参加者の皆さんが書道を楽しみ感じてもらえるような空間を作っていければと考えています。

ところでみなさんは、書道に対してどのようなイメージを抱いていますか。「難しい、苦手」や「学校で少し習って終わった」、「自分には縁がない」などネガティブなイメージを持っている人は少なくないと思います。しかし書道は、字の上手い下手ばかりを気にする必要はありません。墨や筆を用いて個性を表現できれば自然と素敵な作品ができます。それ以前に、「書道の作品は何の字を書いているのか分からない」や、「楷・行・草・篆・隸の五書体は自分には無関係だ」と思っている人もいるかもしれません。しかし、少し視野を広げてみると様々な場所に書道で書く文字が散りばめられているんです。例えば、お札には、隷書が用いられていたり、日本のパスポートには篆書が用いられています。京都の老舗、煎餅・おかきの専門店『小倉山荘』では、社名には篆書と行書が用いられ、商品パッケージには仮名で百人一首が



《都賀・河原地区防災協力体制へ》

都賀防災福祉コミュニティ

副本部長 浪平 博司

「ふれあい灘」第四十一号では、防犯活動の紹介記事でしたが、今回は同じく市民生活重要課題の一つ防災について少しお話をしたいと思います。

悪夢の阪神淡路大震災、あの惨事は二十八年経っても昨日の事のように鮮明に甦ります。地震は不意打ちが怖い、私たちが命がけで学んだことは、その時、どうすれば命を守るのか、守つてあげられるのか、ということ。それには日頃から地震への備えと行動の是非が明暗を分ける。何も知らなければ、すべてが想定外、自分の命は自分で守る、これが「自助」です。巨大地震ともなると被害が甚大、行政だけでは限界があり初期対応が遅れる反省から震災後、神戸市地域防災計画に基づき設立されたのが「地域防災福祉コミュニティ」(略称防コミ)です。

灘区では地域毎に十六カ所の



灘小3年生の防災学習



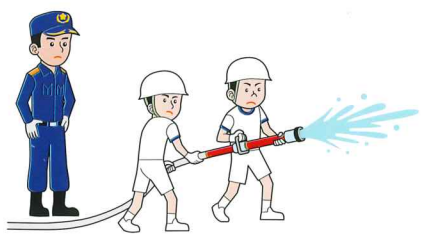
書かれています。

2020年に国民的ブームを巻き起こした『鬼滅の刃』に表示される柱の名前の書体は、鹿兒島の書家が書いた文字が基にされています。

このように、日常生活の中で書かれた文字に注目してみると、無意識にたくさんの書体に触れていることが分かります。私は今まで、お札の書体や商品パッケージの書体など気にしたことなどありませんでした。しかし、ある商品に篆書が使用されていることに気が付き、「書道って意外と身近な文化なのかもしれない」と思うようになりました。興味が湧いたり自分の身近に感じるといことは、ほんの一瞬、些細なきっかけかもしれません。

日本では近年「活字離れ」が指摘されています。確かにメディアの発達や普及によりペンで字を書く、機会は減っていると感じます。学校や教室等で習っていない限り、趣味ではない限り筆を持つ機会はほとんどないのではないで

防コミが順次発足されました。各防コミには防災倉庫が設置され、救助機具・わずかですが非常食・飲料水などが備蓄されています。学校・公施設などは緊急避難場所に指定され、六甲小学校に断水時でも飲料水が補給出来る「ふつQ栓」が設置されました。



これで一応市民を守る防災体制が整い、今のところ平穩無事現在に至っています。ところが近年、東南海トラフ級の巨大地震が深く静かに迫りつつあると言います。脅かしではなく、これが起これば日本の国力低下必至、「喉元過ぎれば」と呑気に構えていては駄目で、平時から災害事のモチベーションを維持することが難しいのです。

さて本題に入ります。述べたように防コミが結成されました。その目的は「自助」から「共助」の段階、つまり地元住民が共に助け合う最も大切な初期の活動ということになります。人々の救出、ボヤ段階の消火、避難誘導、被災者の安全確認などが防コミの主な役割です。そして行政の「公助」が入るのですが、体制が整うまで被災者を見守ります。この自助・共助・公助という迅速な連携と住民の行動が減災につながるのです。(4ページに続く)